

CGニュースPlus

公立中高一貫校対策専用情報誌CGニュース・プラス

横浜サイエンスフロンティア高校 東大現役合格 **推薦含む** 6名!

第51号

発行中萬学院広報室 2016.4.19

横浜サイエンスフロンティア高校 2016年度大学合格実績

5期生232名 ()は過年度生で内数

国公立大

計111(22)名

東大6名 東工大12(3)名
 東京海洋大8名 横浜国大7(1)名
 電気通信大7(1)名 筑波大6(1)名
 信州大6(1)名 千葉大5(1)名
 東北大4(1)名 東京農工大4(1)名
 宇都宮大3名 琉球大3名
 鳥取大2名 北海道大3(2)名
 横浜市大15名 首都大東京4名
等合格

私立大

計529(145)名

早慶上智 計63(7)名
 明青立法中東理 計176(45)名
等合格

■公募推薦・AO入試

東大1名 東北大1名 東工大4名
 筑波大3名 横浜市大1名
等合格



— 国公立現役合格率は38%です—
 初代校長は、3分の1が国公立、3分の1が難関私大に現役合格するという進学目標を掲げていました。生徒の頑張り、教員のサポートでその目標を達成したのは、たいへん喜ばしいことです。

東大推薦合格は、本校の理想とするかたちの一つです。この子は、課題研究を通じて自分が始めたことを3年になっても継続して研究し、日本で一番レベルの高い科学技術コンテストで全国3位になった生徒です。また、東工大にはAO推薦で4名が

— 「高大接続」が言われています—
 本校には「横浜国立大学チャレンジプログラム」という特別入学枠が10名程度設けられています。「将来のサイエンティストとしての資質が十

2009年に開校した横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校。SSH(High School for Science and Innovation)スーパーサイエンスハイスクール、SGH(スーパーグローバルハイスクール)、のダブル指定を受けるなど、全国的にも注目される理数科専門高校です。4月12日、目覚ましい合格実績をあげたその背景をお聞きしに、栗原校長先生を訪問しました。

一つひとつの結果を見ると、子どもたちがよく考えて努力したものがかたちになったといえます。学ばたいものを学べる場を全国の中から自分で探そうという進路指導の結果として、たとえば琉球大学の工学、理学、農学合格は、地域性を考えながら自分のやりたい道を選択した例の一つと言えます。私はそういうところもうれしく思います。

合格しました。その生徒たちの研究は、外部から輝かしい評価を受けたものではありません。しかし、校内で地道に研究を重ね、自分のものとしてきちつと伝えることができた。研究していく能力、プレゼン能力、質疑応答、仲間とチームを組める力など。そういった力が評価されたというのは、歓迎すべきことです。ちなみに東工大の附属高校を除くと、4名も合格したのは本校だけです。

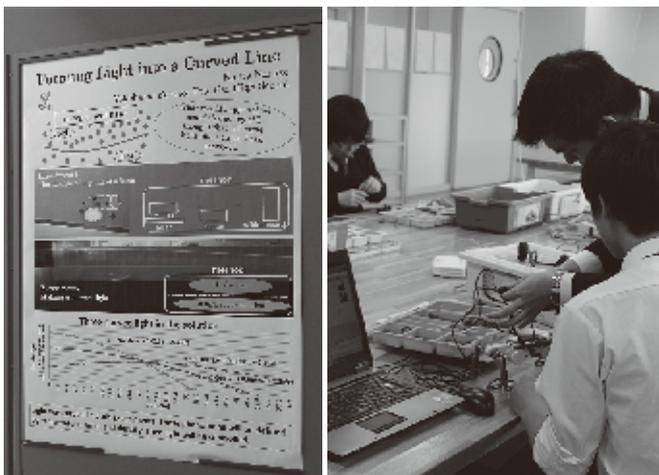
62nd Anniversary
FUN TO STUDY

伝統と革新 since 1954
中萬学院グループ

まるわかり中高
神奈川県公立中高一貫校のことなら中萬学院ホームページで

神奈川の公立中高一貫校
まるわかり
1校50名程度で学ぶことで、学力・生活態度・人間性を総合的に伸ばす！





(左)サイエンスリテラシーでの研究成果を英文ポスターにまとめ海外研修旅行で発表
(右)サイエンスリテラシーのプログラムの一つ「ロボット制御」。5期生が高校2年生の時(SGH指定を受けた2014年4月取材時に撮影)

分認められる生徒をチャレンジプログラム合格者とする」この特別枠に10名が応募して認めてもらえたというのも、本校らしさが出てきたととらえています。

進行する高大接続・大学入試改革で求められる生徒像と、本校が目指す教育の方向は、まさに合致しています。本校の生徒が大学入試で着実に評価されるようになってきたのは確かです。入試改革が進めば今以上に実績は出るでしょうし、出さないとおかし。そう、先生方と話をしています。

—5期生はどんな生徒でしたか？—

彼らはサイエンス生の大学進学結果を見て入学した、初めての代です。進学に対する意識も学力も高い生徒たちでした。また、校長室で私と議論を交わし私にやりこめられたり、あるいは「先生の仰る『品性高潔』『博学篤志』とはどういうことですか？」と食いがつたり。そういう「自分の意見を大人にぶつけてみたい」「この学校を変えてみたい」など良い意味で「頭でっかち」でエネルギーあふれる子どもたちでもありましたね。

—信頼関係あつてこそ、ですね—

先生方の、生徒や保護者の方への丁寧な対応が、信頼関係を生んでいるのでしょう。個々の生徒に対してこれほど面倒見の良い教員集団はないのでは、と思います。そして彼らはレベルの高い研究を貫くこと、高い学力を培うために朝学習を始めとする勉強時間の確保・学習スタイルの確立・仲間と切磋琢磨できる環境づくりに、一丸となって取り組んでくれました。

本校は、この学力養成と課題研究の両輪を、今後もさらに推し進めていきます。

大学入試はすでに変りつつあります。基礎的な力をしっかりつけて、それを知恵に変えていくという本校の教育を徹底して施していきます。また、今求められている、探究する力や協働していく力をつけるプログラムは、さらに良いものとして動いています。将来にわたって伸びていく力をつける大事なステップとして、本校をぜひ生かしてほしい。一緒に前向きに取り組め

るお子さんにとって、これほどの学びの場はないだろうと思っています。

附属中の開校は、これから高校に入学する生徒にとっても大きなことです。志を同じくする異年齢同士の体験は貴重なもので、高校生の人間的な幅を広げることでしょう。これは今までのサイエンス生ではできなかったことです。さらに進化したサイエンスフロンティアでぜひ学んでください。



横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 校長 栗原峰夫先生

いよいよ来春。2017年度開校 横浜サイエンスフロンティア高校附属中学校

開校スケジュール

- 2016年
4月 ○開校準備室
5月
6月 ○募集要項
7月
8月 ○学校説明会
9月
10月
11月 ○志願説明会
12月
2017年
1月 ○志願受付
2月 ○入学者選考
3月
4月 ○附属中学開校

開校まで1年をきったYSFH附属中学校。当初、開校準備室の室長が校長予定とお伝えしてきましたが、室長は高校教育課長兼務とのことで、今後の発表を注視したいところです。また、気になる適性検査・選考方法の詳細については、6月の募集要項、8月の学校説明会で順次明らかになります。

CG啓明館・CG中萬学院・CGパーソナルでは、新情報を待ちながら、即応できるよう連携して準備を進めています。

